

あすとろ通信☆三

岡山アストロクラブ 会報 第3号

2009年5月

■活動状況報告

活動

▼定例観望会

今年2月～4月までに予定していた定例観望会については次のとおり。

・2009/02/28 天候不順により中止

・2009/03/28

場所:瀬戸町宗堂

参加:会員8名、一般9名の計17名



・2009/04/18

場所:吉備高原都市

参加:会員12名、一般2名の計14名



その他の報告

過去3ヶ月(2009/02～2009/04)の件数等の報告

▼ホームページ

・サイト全体の Page View 10669 PV

(各月内訳) ・2009/02 3271 PV

・2009/03 3189 PV

・2009/04 4209 PV

▼問い合わせ・入会等

・9件 ※HPフォームからのもの

▼メーリングリスト利用状況

・400件

▼会員数

正会員3名、準会員6名(内正会員2名は準会員からの登録替え)、純増7名の新たな会員を迎え、2009/04末時点の会員数は、正会員8名、準会員10名の合計18名。

■定期総会報告

平成21年度総会を実施

去る5月10日(日)午後8時から、岡山市中区の珈琲館において、定期総会を開催し、正会員8名全員が参集しました。

会則の改正

総会にて会則の改正を行いました。改正点は以下のとおりです。なお、改正済みの会則全体はクラブのホームページでご確認頂けます。

▼略称を明文化しました

第1条 本会は、「岡山アストロクラブ」と称する。また、略称を「OAC(オーエーシー)」とする。

2 事務局は会長が定めるところに置く。

▼運営委員に関する規定を見直しました

(役員)

第6条 本会に次の役員をおく。

(1)会長(1名)は、本会の運営及び運営に必要な事務をとりまとめし、かつ運営に関する全ての責を負う

(2)副会長(1名)は、会長を補佐するとともに、本会の会計事務を行う

(3)運営委員(概ね正会員5名当たり1名)は、本会の運営に直接関与するとともに、運営委員内の互選による代表によって会計監査を行う。

2 役員は、正会員の互選により選出する。

3 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし、欠員により就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。

4 運営委員定数の見直し、及び同委員の欠員補充に限っては、役員の任期交代に併せて行う。

平成21年度事業報告

▼催事の実績

・H20/08/01 クラブ発足

・H20/10/17 H20年度総会

・H20/11/08 定例観望会 天候不順により中止

・H20/12/06 定例観望会 瀬戸町宗堂にて5名参加(会員3、一般2)

・H20/12/27 定例観望会 瀬戸町宗堂にて10名参加(会員6、一般4)

・H21/01/31 定例観望会 瀬戸町宗堂にて10名参加(会員6、一般4)

近々の観望会等予定日

総会で協議・決定した近々の日程です。

5月30日(土) 定例観望会

瀬戸町宗堂 月齢6.0 00:02 入

6月27日(土) 定例観望会

吉備高原都市 月齢4.7 22:33 入

7月25日(土) 定例観望会

ストックファーム 月齢3.4 21:02 入

8月22日(土) 定例観望会

是里観望地 月齢2.1 19:29 入

・H21/02/28 定例観望会 天候不順により中止

・H21/03/28 定例観望会 瀬戸町宗堂にて17名参加(会員8、一般9)

・H21/04/18 定例観望会 吉備高原都市にて14名参加(会員12、一般2)

別記:平成20年度定例観望会延べ参加人数は56名(会員35名、一般21名)でした。

▼会報の発行

予定どおり以下の会報を発行しました。

H20/11/08 会報第1号

※会員紹介記事が天文雑誌「天文ガイド2月号」に紹介されました。

H21/02/07 会報第2号

※うんちくあれこれ「双眼装置」が天文雑誌「星ナビ6月号」で紹介されました。

▼会員数

クラブ発足時6名だった会員が、平成21年4月までで18名(正会員8名、準会員10名)となりました。

平成21年度の活動方針

活動計画に先立ち、今年度の活動方針を以下のとおり協議・決定しました。

・原則、新月前後～上弦にかけての土曜日夜において、定例観望会を実施する。

・定例観望会の観望地は、原則、岡山市東区瀬戸町観望地とするが、時節や状況に応じて変更を可能とする。

・今年度も引き続き、会費は集めないこととする。

・原則、四半期(5、8、11、2の各月)ごとに会報を作成し、ホームページ上で公開・配布する。

平成21年度の活動計画

▼定例観望会日程

・H21/05/30 (土) 20時～

・H21/06/27 (土) 20時～

・H21/07/25 (土) 20時～

・H21/08/22 (土) 19時～

・H21/09/26 (土) 19時～

・H21/10/17 (土) 19時～

・H21/11/21 (土) 19時～

・H21/12/19 (土) 19時～

・H22/01/23 (土) 19時～

・H22/02/20 (土) 19時～

・H22/03/20 (土) 19時～

・H22/04/17 (土) 20時～

・H22/05/15 (土) 20時～ ※22年度

▼合宿観望会

初めての試みとして、天体観測施設が利用できる宿泊施設での合宿観望会を行う予定です。

場所の想定としては、吉備中央町のアストロテージ「ガリレオ」(最優先)や竜天天文台、西はりま天文台などです。

実施予定日 H21/10/11(日)～10/12(祝)

▼平成22年度総会

実施予定日 H22/05/09(日)

実施時間帯や場所については、その時の参加会員の状況により別途決定します。

▼会報発行

8月、11月、2月、5月の各月に会報を発行します。執筆予定者(正会員)についても仮当てしました。実際の執筆予定者は会報の次回予告欄で都度ご確認ください。

その他

▼ホームページ掲示板の公開化

クラブのリアルタイムな活動について、十分に一般の方々に伝え切れていない状況を踏まえ、ホームページの掲示板を一般公開化する方向で意見がまとまりました。

投稿者はこれまでどおり会員に限定する予定ですが、投稿した記事・画像は誰でも閲覧できるようにする予定です。

クラブ活動の透明性は向上しますが、投稿者は、公開されることを前提とらえ、呼称を含めた個人情報やセキュリティ面での配慮が不可欠となります。

本件は、準備が整い次第別途メール・リスト等でご案内します。

▼忘年会か新年会の実施

会員の親睦を深める目的で、今年度、忘年会または新年会のどちらかを実施します。活動計画の日程には組み入れていませんが、準会員さんも含めた会員全員を対象として時期が来れば企画する予定です。

▼観望場所の新規開拓

会員数の増加、一般参加の対応などを考慮し、今後観望場所が手狭になると予想されます。

現に、5月連休中に実施した観望会では30名以上の参加があったこともあり、観望地は収容限度に近い状態でした。

今年度中には、市内からのアクセスがよく、地域環境などへも考慮できる広々とした観望地の選定を行う必要があります。

観望地新規開拓について会員の方々の情報提供などご協力をお願いします。

■連載記事

季節の星空

第3回「夏の星空」

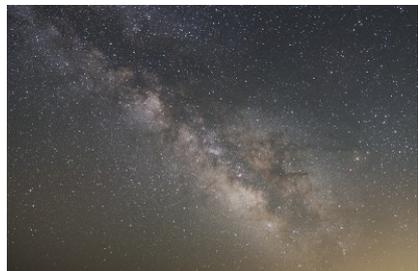
体の芯まで冷える冬、霞がかつた春を越し、曇天続きでストレスの溜まる梅雨を抜けやっとな夏がやってきます。夏休みシーズンであれば翌日の仕事や学校を気にせずスターウォッチングが楽しめる季節です。

＜天の川を散歩しよう＞

夏といえばやっぱり天の川でしょう。さそり座のしっぽといて座の間あたりからわし座、はくちょう座を通りカシオペア座、ペルセウス座まで南北をまたぐ光の帯に感動できるでしょう。肉眼で大パノラマを体験するもよし、双眼鏡で微光星に包まれるもよし、望遠鏡で光の川に散りばめられた星雲、星団という宝石を探すもよし、楽しみ方は色々です。

天の川を満喫する為には暗い夜空が必要ですが、最近では街の光等で近くではなかなか見れなくなっているのが現状です。

たまには足を伸ばして天の川に会いに行きませんか？道中の疲れを吹き飛ばしてくれる美しい夜空が待っていてくれるはずですから。



※撮影地:愛媛県塩塚高原

＜夏の夜空の三角形＞

夏の星めぐりの目印となるのが、七夕伝説でお馴染みのこと座にある「織姫星」0等星のベガとわし座にある「牽牛星」1等星のアルタイル、それにはくちょう座のしっぽの1等星デネブの3つの星で形作る「夏の大三角」です。7月7日の七夕の頃なら21時には東の空の中程に見えてははずです。どうですか？見つかりましたか？

ではこの三角形付近での見所をいくつか紹介しましょう。

まずはこと座。ここでの見ものといったらやはりβ星とγ星の間あたりにある環状星雲M57でしょう。ドーナツ星雲とも呼ばれるようにぽっかりと穴が開いたリン

グ状の形は小さな望遠鏡でも見ることができます。この独特の形は太陽くらいの重さの星の最後の姿で、外周部分のガスがゆっくり離れて広がってできた形だとみられています。我々最も身近な太陽も今から50億年先にはこんな風になってしまうのでしょうか。そんな事を考えながら見てみるのも面白いんじゃないでしょうか？

▼M57 リング星雲



※撮影地: 吉備高原都市

それともひとつ。ベガのそばにあるε星を見てみましょう。ふつう肉眼では一つにしか見えないのですが双眼鏡を使うと二重星であることが分ります。さらに望遠鏡を使って覗くと、それぞれがまた二重星のペアである事がわかります。このε星は二重の二重星ということから「ダブル・ダブルスター」と呼ばれています。ε1星とε2星の間隔は208秒角と大きく離れています。ε1星は5.0等と6.0等のペアが2.6秒角、ε2星は5.2等と5.5等の

ペアが2.3秒角と接近して並んでいます。このため、口径5~6cmの望遠鏡の分解能を試すテストスターとして使われることもあります。また、ε1星とε2星はどちらも連星でそれぞれ1200年、600年の周期でめぐりあっています。



次に、はくちょう座を見てみましょう。宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の始発駅となる星座ですが十字架を思わせる星の並びはきれいで見つけ易いと思います。

夏の大三角の一つであり、「白鳥の尾」という意味のデネブは1.3等星と他の二つの星(ベガ0.0等、アルタイル0.8等)と比べてひかえめにみえますが、実は重

さが太陽の20倍、表面温度が1万度を超える(太陽は6000度)という星です。

地球からの距離をみると、ベガまでは25.3光年、アルタイルまで16.8光年と割りと近いのですが、デネブは2000光年とかなり遠い星です。仮にデネブをベガと同じ距離まで近づけたとすると、-10等星という半月くらいの明るさで見えるというのですから、そのすごさがご理解いただけるでしょう。

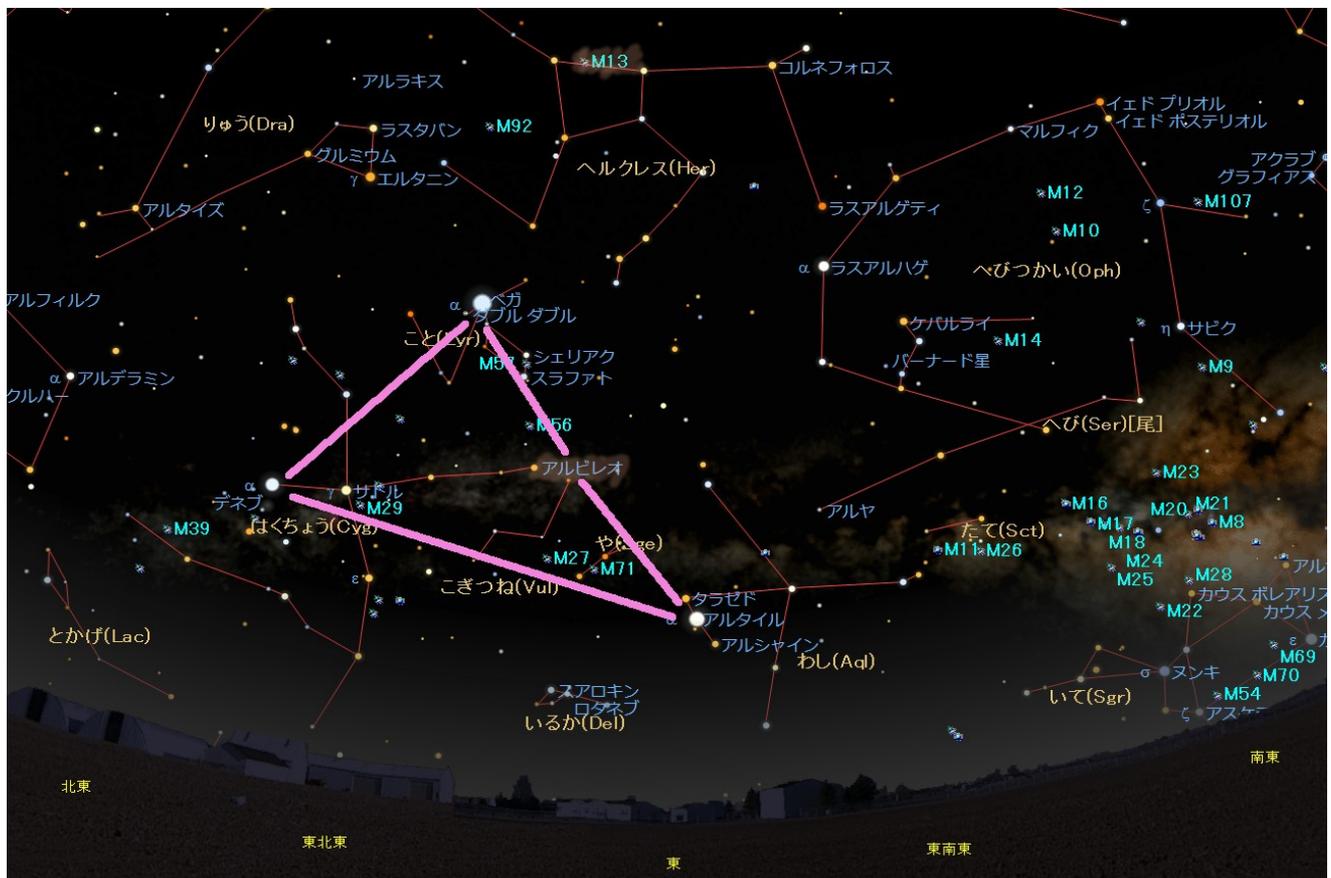
そのデネブが白鳥のしっぽなら、その反対側のクチバシにあたるβ星がアルビレオと呼ばれる有名な二重星です。3.1等星と5.1等星のペアですが、オレンジ色とエメラルドブルーの対比は「天上の宝石」と例えられる程の美しさもっています。私の大好きな星のひとつです。

▼アルビレオ



※撮影地: 岡山市東区瀬戸町

はくちょう座のすぐ南に位置するこぎつね座に惑星状星雲M27があります。その形が鉄壺鈴に似ていることから別名



「あれい状星雲」とも呼ばれています。これも前出のM57と同じく、太陽くらいの星の終末期の姿なのですが、こうして見るとその形にも色々あってなかなか興味深いものです。

▼M27 あれい状星雲



※撮影地 岡山市東区瀬戸町

また、こと座のすぐ隣、ヘルクレス座にある球状星団M13も見逃せないところですよ。

こちらは口径が少し大きめの望遠鏡で見たいものです。無数の星がマリモのようにびっしり集まった様子は神秘的でさえあります。

▼M13 ヘルクレス座の球状星団



※撮影地: 吉備高原都市

他にも、いて座付近にはいくつもの散光星雲、球状星団、散開星団があり、全部をご紹介できないのが残念ですが、一つ一つ探していくのも宝探しみたいで楽しめるものだと思います。

夏のスターウォッチングは見所も多く、その中のいくつかをピックアップして駆け足でご紹介させて頂きました。が・・・もうひとつ2009年7月22日に見逃してはならない天文現象があります。

< 皆既日食 >

今年の7月22日にトカラ列島を中心に種子島南部、屋久島、奄美大島北部で皆既日食が観察できます。日本の陸地に限って言えば1963年の北海道東部で見られた皆既日食以来、実に46年ぶりであり、次回も2035年の北陸地域での皆既日食まで26年間見られません。いかに珍しい現象かお分かりいただけるかと思います。

この日食自体は日本全国で見られますが、残念な事に、皆既日食として見れるのは上記の一部の島だけであり、その他

の地域は部分日食としての観察となります。(図1)

日食とは月が太陽の前を横切る時、月によって太陽が隠される現象です。太陽が全部隠されれば皆既日食となり、一部分のみ隠されるのであれば部分日食となります。(図2)

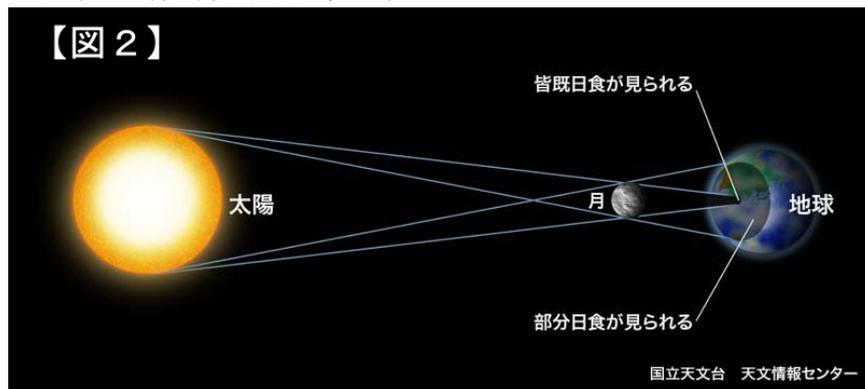
また、地球と太陽と月との距離によって月の見かけの大きさにより月のまわりから太陽がはみ出して見えるときには金環日食と呼ばれます。

一般的には、皆既日食が見られる一部の地域(皆既帯)に近いほど大きく欠けて見えます。

今回の場合は九州以北であれば、南へ行くほど大きく欠けて見えるということになります。

欠ける度合いは「食分」という数値で表します。食分0.3といえば太陽の直径の30%を月が隠すという意味になります。今回の日食を岡山で観測する場合は食分が0.836ですから、8割以上が隠される事になります。

【図2】



国立天文台 天文情報センター

【図1】



国立天文台 天文情報センター

7月22日は平日ですが、滅多にないチャンスですので、皆さん日食グラスを持って観察しませんか？

(太陽を見るのには危険が伴います。初めての方は国立天文台のホームページ <http://www.nao.ac.jp/phenomena/20090722/>等での確認をお奨めします)

それでは今宵もそれぞれの空の下、お気に入りの星の宝石達を探しましょう。

(執筆:No.2 倉森)

※日食関連の説明画像(図1、図2)は国立天文台天文情報センターのWEBページより転載させていただきました。

うんちくあれこれ

第3回「“Neue Schwartz, bitte!”」

日食月食にスターパーティと各地で開催し盛んな世界天文年の2009年。皆さんもあちらこちらへ遠征とお忙しい最中。私、語る蘊蓄(うんちくと読むんだそうな)も持ち合わせませんが、ちょいとお耳をお貸しくださいませ。

さてさて、わが岡山アストロクラブも粒揃いなロマンチストが集い寄り、星見の装備もドブありビノありオモチャありとよりどりみどりで一般観望さんいらっしやーい状態。

そんな筒揃いの中で私のお気に入りな一本はコレ。「10分で完成!組立天体望遠鏡」星の手帖社(税込価格1,580円)。あのラプトル50に向こうを張れる頼もしいヤツ。小学生でも組み立てられるガンブラ感覚なのに、こいつが案外良く見える見える。ネットでは手軽な改造素材として双眼望遠鏡にされたり接眼鏡改造で極限倍率にチャレンジされたりと、いい感じで弄ばれているところ。だから甥っ子用に購入した翌週には自分用にもお買い上げ。

子供をターゲットにしたそいつは、手持ちを前提としているからなのかねえ15倍と適度な倍率でカメラ三脚に固定して月やら見たらすこぶるゴキゲンだ。明るい対象なら40mmの口径も問題ないね。ただ、やはり15倍。アルビレオも木星の4衛星も問題ないけど、土星の輪っかはうーん見えねえや。

もう少しだけ倍率欲しいなあ、って星に願っていたら、☆多キラーン、叶っちゃった。なんと「10分で完成!組立天体望遠鏡35倍」星の手帖社(税込価格2,880円)ってのが発売されているじゃな〜い。

あ、ぼちつとな。

キター。世界天文年2009のシールが



貼られたちょいとお兄さん向けなヤツ。弟分なヤツは今や10ドル望遠鏡としてワールドワイドに人気者だそう。さすが渡部潤一さん、顔がでかいだけの人物ではなかったようだ。(おいおい失礼な)

そんな期待の持てそうなニューフェイス。またもや説明書通りに組み立てるのは芸がない。ちょっと気合いを入れて組み立ててみましょう。かと言って、デザインに凝るのは自分らしくないので他の人にお任せして、小学生並み工作や百姓修理ファンの私としてはここはひとつ安上がりな機能美を追求することにしますか。

前作15倍の問題点は、1)鏡筒内部の乱反射、2)はめ合わせ部分からの光漏れ、3)接眼鏡の目レンズへの外部光の進入、4)カメラ三脚架台の不安定さ。特に1)はプラスチック素材そのものによる乱反射がひどい。絞りでカットされてはいるのだろうけど、是非改良したい問題点である。

それに対する改良方針は、1)植毛紙を購入するための送料に納得がいかないもので100均で見つけた黒色フェルトで代

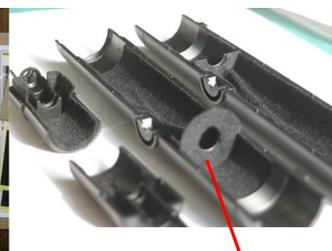
用、2)フェルトをオーバーラップさせて隙間潰しと遮光テープ貼り、3)ホームセンターで見つけたスポンジカバーが隙間遮光もいい感じでぴったんこカンカン、4)アリミゾ架台に対応するためかまぼこ板加工でアリガタ作製。

構想2ヶ月、製作2日。ちまちまと作りながらできあがったのがコレ。名付けて「10分で完成!組立天体望遠鏡35倍改“Schwartz”」。世界天文年公式シールが泣かせます。しかも、ブラックホールでカンフォタブルな仕上がりになりました。あー、K社とかKK社にインスパイヤされたものですが、決してパクリではありませんのでお間違えなきよう。

そして、ある晴れた透き通る宵の空、アリミゾ架台にセットされた“Schwartz”が望むはザ・ムーン。38万km彼方から地に降り注ぎ漆黒の迷宮を通り抜けた冷たい光は、、、!

ふふふ。その感動は私のモノだしね。では。〜

(執筆:No.4 石島)



これが100均フェルトだよん



会員紹介

「No.8 井上」

岡山アストロクラブ会員番号 8 番の井上です。

私より知識も経験も盛りだくさんな方たちが数多くいる中、誠に恐縮ですが先入れ先出し方ということで会員紹介を執筆させていただきます。



簡単に自己紹介させてもらいますと、県内の大学に通う 1987 年生まれの 21 歳。活発な紳士達に紛れ込む数少ない青年です。岡山育ちの父と母を持つ生まれも育ちも岡山の生粋の岡山っ子です。

天体観望を始めたきっかけとしては、恥ずかしい話たぶん「失恋」です。(笑) 当時付き合っていた彼女が星を見るのが非常に好きな子でして、二人でよくドライブがてら星を見に行っていました。そんな彼女の喜ぶ顔が見たくて、その季節の星座やらそれにまつわる神話、星が綺麗に見えるといわれるスポットを調べまくっていました。その時はあくまで彼女の為であって、私自身が天体に興味があるわけではありませんでした。

そんなこんなで輝く二人の日々にも終りが訪れ、気がつくとも一人で夜空を見上げる私がありました。(笑)そして何を思ったのか望遠鏡を買っていました。

それからというもの、彼女の気を引こうとしていたのか、なにがしたかったのかよくわかりませんが、もくもくと天体を調べ望遠鏡を覗いていました。

その時の季節は冬で獲物になる天体はたくさんあったのですが、初心者によくある話、「思ったより見えない」「見えているのかわからない」って感じで壁にぶつかりました。これ以上一人でやっても仕方ないと思い、ネットを開くと「岡山アストロクラブ」のページがあったわけです。

最初はちょっと天体について教えてもらうだけの軽い気持ちで会員登録して観望会に参加していました。そして次第に、自らの「眼」を信じ鍛え上げる眼視オヤジたち、写真撮影の奥(泥沼?)の深さ、星空

そして宇宙に思い描くロマン(笑)に魅了され、気がつけばドップリはまっていた。

そんな感じで、本格的に天体観望を始めようとしたきっかけはいつなのか、自分でもよくわかりません。軽い感じでしていたらいつの間にかハマっていました。

ただ、今にいたるまでに辞めようと思うマイナスのきっかけはたくさんありました。やはり他の趣味に比べお金がかかります。星を見るだけの道具に何万円もだすのはそう簡単ではないですし、それなりの知識や技術が必要とされ、さらには気象条件にも左右されます。本当に好きでなければ続けられません。

私の場合、そんなマイナスのきっかけを取り除いてくれて、天文の面白さをおしえてくれたのが、我がクラブです。

しかし、なかにはマイナスのきっかけを取り除ききれずに辞めてしまったり、せっかく興味を持ったのに星を見ることなくあきらめてしまう人もいます。

私個人の想いとしては、そんな人たちに天文の本当の面白さを知ってもらい、その上で共に楽しみ、共に感動したいと思います。せっかく生まれた「きっかけ」を我々クラブで応援できればなと思います。

(執筆:No.8 井上)

編集雑記

昨年 10 月のクラブ会員公募開始以来、多才かつ頼もしいメンバー達が仲間入りし、ようやくクラブ活動らしい雰囲気を楽しめるようになりました。

現在、準会員として登録頂いているメンバーさん達の中でも、実際には正会員同様に観望会などに積極的にいらっしゃっている方も多い状況です。

毎回、新しい出会い、新しい驚きが絶えない観望会が実施できていることを大変嬉しく思います。

さて、今回の会報も、執筆者の皆さんが気合いを入れて原稿を書き上げてくれました。ちょっとしたこだわりや生い立ちなど、観望会では聞いたことのないような楽しい話題を、誰もが読みやすい記述で提供してくれました。編集人としてこの場を借りてお礼を申し上げます。

また、インターネット上で公開しているこの会報を読んで頂いている方もいらっしゃると思います。ご都合が合えば、是非、私どもが企画しております定例観望会にお越しください、素晴らしい仲間や天体観望の楽しいところなど一緒に共有なさいま

せんか。どうぞどうぞ、お待ちしております。

最後になりましたが、前回の会報の記事「うんちくあれこれ双眼装置」が天文雑誌星ナビ6月号で紹介されました。記事執筆者の文才が輝いております。(笑)

また同じ雑誌内で、当クラブ会員が撮影した写真が入選しました。お二人ともおめでとございました。

天体に対する興味は、いろいろな方向性がありますが、今後もそれぞれに皆さん楽しみながら精進してまいります。

発行元

岡山アストロクラブ事務局

発行日

平成21年5月11日

編集

No.1 大島

記事執筆(順不同)

No.1 大島

No.2 倉森

No.4 石島

No.8 井上

※本会報に使用している星図は、日立ビジネスソリューション(株)のTheSky6にて作成したものです。

※本会報に使用した写真・絵・文章の著作は、特に表記しているもの以外は各執筆者、画像提供者にあります。

【次号予告】

次回発行は平成21年8月に予定

掲載記事予定(執筆予定者)

「季節の星空」 No. 7 坪井

「うんちくアレコレ」 No.15 水谷

「会員紹介」 No. 2 倉森

※掲載予定記事、執筆予定者は都合により変更することがあります。



クラブ WEB ページ

URL: <http://oac.d2.r-cms.jp/>